

# 第2回基本計画部会

## 会 議 録

日 時：平成30年7月24日（火）午前9時30分開会  
会 場：大通バスセンタービル1号館 6階 みどりの推進部大会議室

## 1. 開 会

**○事務局（仁宮みどりの推進課長）** 本日は、お忙しいところをご出席いただき、まことにありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまから第2回基本計画部会を開催いたします。

初めに、事務局から報告事項がございます。

本日は、委員6名の方全員にご出席いただいております、定足数である過半数に達しておりますので、この会議が有効に成立していることをご報告いたします。

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。

まず、お手元の一番上から第2回基本計画部会の次第、座席表、基本計画部会委員名簿、資料1の第4次札幌市みどりの基本計画策定のための市民アンケート結果抜粋、資料2の札幌市みどりの基本計画に係る市民ワークショップ開催結果、資料3の第4次札幌市みどりの基本計画の策定について、そして、参考資料として、主な検討事項についてです。

以上、7点をお配りしております。

ご確認いただき、資料に不備がありましたらお知らせいただければと思います。

それでは、ここからの会議進行につきましては愛甲部会長にお願いをいたします。

## 2. 議 事

**○愛甲部会長** それでは、早速、議事に入ります。

第4次札幌市みどりの基本計画の策定について、事務局から資料の説明をお願いいたします。

**○事務局（仁宮みどりの推進課長）** 第4次札幌市みどりの基本計画の策定についてご説明いたします。

初めに、第1回基本計画部会以降に実施しました市民アンケートと市民ワークショップについてご報告をいたします。

議事資料1の市民アンケート結果をごらんください。

市民アンケートは、18歳以上の札幌市民のうち、居住区、性別、年齢のバランスをとり、無作為抽出で3,000人に調査票を郵送し、平成30年5月8日から5月22日までの2週間、実施いたしました。その結果、962人から回答をいただき、回収率は32.1%でした。

前回の部会で単純集計をお配りしましたが、その後、クロス集計により傾向もわかりましたので、本日はポイントのみかいつまんでご紹介をいたします。

まず、みどり全般の質問の三つについてです。

問2-2の札幌の原風景として思い描くものはどのようなものかについてですが、第1位は、「山並みの見える風景」で、69%、次いで、「大通公園周辺の風景」で、65.5%でした。

続いて、問2-3の札幌のみどりに不足しているものについてですが、一番多かったものは、「公園の再整備と機能の見直し」で、34.6%、次いで、「市民ニーズに対応した公

園の充実と管理・運営」で、約30%でした。

次に、問2-4の優先して取り組んでほしいことについてですが、第1位は、「健康づくりに役立つ公園や自然歩道の整備」で、60.5%、第2位は、「休憩できる小さな空間などの緑化」で、48.2%でした。

右側に移りまして、個別のテーマについて簡単にご紹介いたします。

まず、公園についてですが、小さな公園については、約56%の方に「活用されている」との評価をいただいておりますが、今後、公園の機能特化の取組をさらに進める場合の可能性についてお聞きしたところ、55.5%の方が「地域が活用できる場として貸し出すこと」を選択され、その使い道として、夏は夏まつりなどのイベントの場、冬は雪置き場などがありました。

続いて、2ページの右側に移ります。

都心のみどりについてです。

都心の公共施設の緑化の充足についてですが、「足りている」という評価が約38%、「足りていない」という評価が約47%でした。また、民間施設の緑化の充足についてですが、「足りている」という評価が約32%、「足りていない」という評価が約53%で、どちらも足りていないと感じる市民が多く、民間施設のほうがより緑化が足りていないとの印象が強いことがわかりました。

続いて、3ページに移ります。

左下にありますみどりのボランティアについてですが、ボランティアに参加したことがある市民の方は6.5%で、「知っているが、参加したことがない」と答えた方が38.7%、「知らない」と答えた方が54%でした。こちらは、年齢が低くなるにつれ「知らない」という割合が多くなる傾向でした。

問7-2で「知っているが、参加したことはない」と回答した方にどうすれば参加したいかをお聞きしたところ、「活動場所や時間の自由度」が第1位でした。当初は、「交通費程度の支給」が上位に来るのではないかと予想しておりましたが、12.6%と低い結果となっております。

次に、問7-3でどのような活動に参加したいかをお聞きしたところ、「ごみ拾いなどの清掃活動」が第1位となり、若い世代では「イベントなどのお手伝い」の割合が高くなる傾向にありました。

問7-4でどのような場所でボランティア活動に参加したいかをお聞きしたところ、「身近な公園」という回答が60%と突出して多い結果となっております。

以上、簡単ですが、アンケートの結果の概要になります。

今回、このような結果を踏まえて施策を展開していきたいと考えております。

次に、資料2の市民ワークショップの開催結果について簡単にご報告いたします。

去る6月23日に開催しまして、22名の方にご参加いただき、活発にご議論をいただきました。三つのグループに分れて、将来像についてと新たな価値についてご意見をいただい

ております。

右側の自然・環境のみどりでは、中段の緑色の箇所将来像をまとめております。

四季の変化や在来種が札幌らしさを生むみどりの保全と活用を進める、市民の視点、観光客の視点で守り育てる自然環境のみどりなどとなっております。

下段の黄色い箇所の新しい価値については、自然と人との共生、みどりは目の保養、癒やされ、健康になるなどの意見がございました。

次のページに移ります。

左は都市・まちのみどりについてですが、中段の将来像としては、市民だけではなく、外部の人に自慢できる季節を楽しめるみどりがあるまち、身近に触れられ、心を豊かにするみどりがあるまちとのご意見をいただきました。

新たな価値としては、市民とともに管理できる体制づくりや小さな公園を地域が活用してコミュニティを形成する、自分自身の気持ちがいよくなるなどのご意見がありました。

最後に、右側のみどりを楽しむ人ですが、将来像としては、みどりをきっかけに人と人との交流が身近にあるまち、将来のみどりを知り、伝え、守り、引き継ぐまちとのご意見をいただき、新たな価値では、心身ともに健康で豊かに暮らせる価値などのご意見がありました。

ワークショップ全体を通して私どもが受けた印象としましては、みどりを通して気持ちがいよくなる、心や体が健康になるといったご意見が多く、心理面への効果が期待されていることのほか、都心のみどりが少ないと感じている方が多いということでした。これらのご意見も参考に、将来像を初めとした構成案を修正しております。

次に、資料3の「第4次札幌市みどりの基本計画の策定について」をごらんください。

まず、前回の振り返りですが、札幌市のみどりの価値について、現状で、どこまで達成し、評価されているのか、自己点検が必要などのご意見をいただきましたので、2ページに簡単にまとめております。

また、市街化区域のみどりについては、都心のみどりは少ないが、山に囲まれているので、一定量のみどりを感しているなどのご意見をいただきました。こちらは3ページの「都心の緑化について」でまとめております。

次に、本日ご議論いただきたいみどりの基本計画の骨子となる構成案ですが、前回は、それぞれの関係性を整理してほしい、重要な視pointsの説明が不十分とのご意見をいただき、事務局で整理し、その過程で修正を加えております。5ページに再整理しましたので、ご意見をいただければと考えております。

そのほか、市街化調整区域のみどりや生物多様性、農地のみどりなどについてもご意見をいただきましたが、次回以降に中間答申の議論を進める中で活用させていただきたいと考えております。

それでは、2ページをごらんください。

これまでの札幌のみどりづくりを整理しております。

左上の明治期からさかのぼってご説明いたします。

明治期は、現在まで市民の憩いの場となっている大通公園、円山公園、中島公園が造成され、アンケートにもありましたとおり、現在では札幌の原風景の一つとなっております。

次に、大正期からは、旧都市計画法による碁盤の目の街路づくりと住区計画に基づく公園整備により、公園の配置モデル図にあるような計画的な公園配置を行ってきました。これは全国でも先進的なものであり、現在では、市内の市街化区域内に計画的に都市公園が配置され、良好な住環境を形成しております。ただ、中央区などの既成市街地は、人口増加が進んでいる中、公園が不足している状況でございます。

右に移りまして、戦後は、町村合併や冬季オリンピック札幌大会の開催などにより人口が増加していきましたが、それに伴うまちの拡大を抑制するため、市街地をみどりの帯で包み込む環状グリーンベルト構想を提唱し、保全や造成を進めてきまして、現在はほぼ完成しております。また、環状グリーンベルトを河川や道路緑化などでつなぐみどりのネットワークも形成されている状況です。今後は、現在あるみどりをその特性に応じて活用することや変化するニーズに応じて公園などの機能転換を図る必要があると考えております。

左下に移りまして、みどりの保全についての取組ですが、平成13年に条例を制定し、緑保全創出地域制度を立ち上げ、開発の際に一定の緑化率の保全や創出を義務づけることにより、みどりを創出しており、全国に先駆けて取り組んでまいりました。

その右隣の山並みの保全ですが、市街地と山奥の間にある山際の里山地域を風致地区に指定することや、都市環境林として取得することで開発を防ぎ、美しい山並みを保全することができております。

最後に、右側の市民との協働ですが、第3次札幌市みどりの基本計画では、「つなぐ」をキーワードに、公園ボランティアや森林ボランティアなどの支援を行ってきました。その結果、ボランティア登録数は増えてきましたが、今後はコーディネートする人材の育成や参加しやすい仕組みづくりが必要と考えております。

以上、簡単ですが、今までの取組を評価いたしました。

今後、答申案を作成する場合には、このような内容を盛り込むことを考えております。

続いて、3ページの都心の緑化についてです。

本日、この後にご説明する構成案とも関係してきますので、ここでご説明をさせていただきます。

前回の部会では、都心のみどりは少ないのだけれども、山並みなどの目に見えるみどりは多い、都市景観をつくり出すみどりとは何か、などのご意見がありました。この中で、都心の緑化に関係する上位計画の位置づけと市民ニーズ、あるいは、他都市の事例についてご紹介し、再整理させていただきます。

左側の札幌市まちづくり戦略ビジョンでは、都市空間について、魅力と活力を持続的に高める集約型のまちづくりを目指すとしており、具体的には、中ほどに赤色で囲ってあり

ますとおり、豊かなみどりが充実することにより、潤いや風格が感じられる都心にふさわしいまち並みが形成されていますなどとしています。

真ん中の第2次札幌市都心まちづくり計画では、北海道、札幌を象徴する豊かなみどりの空間の創出、拡充を掲げております。

右側では、先ほどご紹介した市民アンケートにおいても、都心のみどりの充足については、公共施設、民間施設ともに、「足りていない」という評価が「足りている」という評価を上回る結果となりました。市民ワークショップでも都心のみどりが少ないとのご意見をいただいたところであります。

また、みどりが持つ機能の面で見ますと、市街地から見える山のみどりについては、景観形成や環境保全、環境教育の場などの機能を果たしておりますが、都心における身近なみどりには、それ以外の機能として、まちづくり活動の場の提供、木陰などによる快適な都市環境の形成、潤いや安らぎの提供などのさまざまな機能を担っており、それぞれが機能を発揮することで札幌のみどりの価値を高めると考えております。これらのことから、右下にありますとおり、都心の緑化を緑化行政の課題として認識し、推進していく必要があると考えております。

4ページをごらんください。

こちらでは、前回委員からご紹介がありましたバンクーバーとポートランドの取組、首都圏の民間緑化の事例を載せております。

まず、バンクーバーですが、2010年のバンクーバーオリンピックを契機に、2020年までに地球に一番優しい都市を目指すとしてさまざまな取組を行っております。コンベンションセンターの屋上緑化や植物や食べ物について学ぶためのガーデンの作成、廃線を公園として整備するなどの取組を行っております。

中ほどのポートランドでは、「地区内のコミュニティによる自助こそが都市環境を再生する力である」というコンセプトのもと、エコディストリクトの推進を掲げ、地区内の住民組織が中心となって協議しながら、緑化を初め、建物や街路などを再生し、環境負荷の少ない都市づくりに取り組んでおります。

右側の首都圏の民間緑化事例ですが、1段目の商業ビルの屋上庭園は、憩える空間やイベントができる広場などを整備し、利用者に開放している事例です。3番目は、飲食店などに囲まれた中庭を緑化し、快適な空間を創出することによって滞留する空間をつくり、周辺の商業施設に経済効果をもたらしております。4番目の大手町の森は、「都市を再生しながら自然を再生する」をコンセプトに本物の森をつくろうという取組で、水や空気の流れを変えて環境改善に寄与することや都市のにぎわいを再生することに効果を発揮し、高い評価を受けているものです。

このようなまちづくりに関して民間事業者が広場の創出や環境問題への対応などといった公共的な役割を担い始めている動きと連動して、札幌のまちづくりを考えていく必要があると考えております。

次に、前回いただいたご意見も参考に計画の構成を考えましたので、5ページをごらんください。

前回、愛甲部会長から、意義や将来像、取組の柱の関係性をもう少し整理してほしいとのご指示がございましたので、再度ご説明をさせていただきます。

まず、一番上の札幌の価値を高めるみどりの意義ですが、みどりが本来持つ意義について、国土交通省監修の緑の基本計画ハンドブックを参考に、札幌の特徴を加え、五つの意義を整理し、その意義が効果を発揮する対象を「自然・環境」、「都市・まち」、「ひと」の三つにまとめております。

なお、この三つは、みどりの基本計画において働きかけている対象でもあります。

この三つの対象ごとに、その後のみどりの将来像や取組の柱、施策の方向性や施策についてまとめております。

前回とは取組の柱と重視すべき視点の箇所を変更しております。

前は、重視すべき取組の柱として、選択と集中の考え方をこの中に取り入れて四つの柱を立てておりましたが、市民の皆様にはわかりやすくする観点から、取組の柱は意義や将来像と同じ三つの分野とする一方、今後10年間で積極的に取り組んでいく視点を、右下にありますとおり、重視すべき視点として整理し、施策の方向性や施策の中でめり張りをつけていくこととしております。

この重視すべき視点は、限られた資源の中で効果的に事業を展開し、みどり分野の喫緊の課題への対応と札幌全体のまちづくりにみどりの分野が積極的に寄与していくべきと考える視点を整理しております。

この重視すべき視点については、次のページでご説明いたします。

6ページをごらんください。

左側に、社会動向や関連計画、また、札幌市のみどりの現状と課題、市民意見などを整理し、中ほどの矢印の先にその中から抽出されたキーワードを整理しております。そして、そのキーワードから導き出される四つの重視すべき視点を新たに整理しております。

まず、一つ目の青色の丸の「ストックの活用」ですが、右側の青色の字のところに記載しておりますとおりでして、読み上げさせていただきます。

「集約型のまちづくりを行う中で、今ある公園をより一層活用するとともに、まちづくりと連動してみどりのオープンスペースを創出する視点」としております。「公園緑地の整備は一定の水準にあり、量的にはほぼ充足してきましたが、全てのみどりの機能を維持することは経営資源的に制約があります。今後は、公園を新しくつくっていくことよりも、今ある公園緑地などの個性に合わせて、大きな公園では民間活力を導入し、小さな公園は地域の広場として貸し出すなど、より市民に使っていただくことを重視していきます。また、都心や地域交流拠点などに機能を集約する方向性が示される中、みどりの分野においても、まちづくりと連動した複合化や都心部の開発に合わせてみどりのオープンスペースを創出するなど、潤いのある魅力的な空間を効果的に創出していく視点が必要です。」こ

のようにしております。

次の赤色の丸の「札幌の魅力を高める」です。

「札幌の活力を維持していくため、都市の魅力を高める緑の空間を都心を中心に創出し、活用していく視点」としております。「人口減少化社会を迎え、都市の縮退が懸念されるなか、札幌が活力あふれる都市であり続けるためには、北海道新幹線の札幌延伸や冬季オリンピック等の開催誘致などを契機として都市の魅力を高める必要があります。」としております。「そのために、みどりの分野では、市民や観光客が多く訪れる都心において、都市基盤としてのみどりのあるべき姿を市民、企業、公共施設の担い手に示し、まちづくりをリードするみどりを創出するとともに、市民や観光客が憩い、交流し、滞留する魅力的な空間として活用していく視点が必要です。」このようにしました。

次に、三つ目、紫色の丸の「市民ニーズへの対応」です。

「人口構造の変化等に伴い市民ニーズが多様化する中、公園緑地に集うことで生まれる優しい地域コミュニティを育む視点」としまして、「人口構造の変化に伴い市民ニーズが多様化しており、公園などの利用形態も変化しています。身近な公園緑地に集うことで世代間の触れ合いが生まれ、地域で支え合い連携することで誰もが住みよい地域コミュニティの創出が必要です。」このようにしております。

次に、四つ目の緑色の丸の「自然環境の保全」です。

「地球環境の保全や生物多様性のベースとなる自然環境を守り、教育の場、ふれあいの場として活用する視点」とし、「札幌では2008年に環境首都・札幌を宣言し、第2次環境基本計画においても「都市と自然が調和した自然共生社会の実現」を掲げています。先人が残してくれた札幌のみどりを今後も大切に守り育てていくためには、市民や来訪者が教育の場や触れ合いの場として親しめるような活用に積極的に取り組んでいく必要があります。」このようにしました。

以上、四つの視点を事務局案として提案いたしました。本日ご審議いただいた上で、次回の審議会の案を作成したいと考えております。

次に、7ページと8ページをごらんください。

前回の資料と同じく、施策の方向性と施策のイメージを新しい取組の柱に合わせて並びかえております。

重視すべき視点が関連する箇所、今後10年で積極的に取り組んでいく施策について、四つに色分けした円をつけております。まだ全ての施策を盛り込めていない状態ではありますが、重視すべき視点がどのように取り入れられるのか、イメージが湧くように作成しております。

最後に、9ページをごらんください。

こちらでは基本理念と将来像についてまとめております。

赤色の字の部分が審議会及び前回部会のご意見をお聞きして修正した箇所です。また、緑色で追加している箇所が市民ワークショップのご意見を参考に新たに追加した部分で、

青色で書いてある部分が、当初の案にもありましたが、市民ワークショップでも同様のご意見をいただいた箇所です。こちらについてもご意見をいただければと思っております。

最後に、参考資料について簡単にご説明させていただきます。

参考資料の1ページは、今までお示しした資料の中から都市公園について抜粋しているものです。時間の関係から詳細については割愛いたします。

2ページをごらんください。

こちらは、平成28年度に審議会から答申いただきました公園整備方針の概要です。

札幌市には公園が充足していることから、中央区などの既成市街地以外では新規の公園整備は行わないこととしております。また、右側上段のように、街区公園は機能分担の考え方で再整備に取り組んでいるところです。

3ページをごらんください。

こちらは、中央区などの既成市街地を選択して新規整備などを行っていく根拠となる資料です。人口増加が著しく、かつ、公園整備が進んでいない場所を選んでいることを示しております。

次に、4ページをごらんください。

右の図の赤色で囲われた部分が新規整備推進地域として平成27年度に設定した箇所です。この地域における公園の造成を推進してきましたところ、図にありますように、平成28年以降に整備済みの4か所と2か所の整備予定箇所により、現在、新規整備推進地域の範囲が徐々に狭まってきております。

次に、5ページをごらんください。

審議会から、ボランティアの意見を反映する仕組みや高齢化の問題、情報発信の問題などのご意見をいただきました。先ほどご紹介した市民アンケートの中でも、活動場所や時間の自由度、あるいは、情報の入手方法などが改善されることが参加につながるの結果がありましたことから、これからの検討次第ですが、ボランティア支援の活動の拠点を形成し、ボランティア団体同士の交流はもとより、地域ごとに情報発信の場や個人でも参加しやすい環境を整えていくことを考え、ボランティア活動支援となり得る施設を紹介しておりますので、こちらについてもご意見をいただければと思います。

次に、6ページをごらんください。

森林、自然歩道についてです。

まず、6ページでは、平成30年3月に策定しました札幌市都市環境林管理方針をご紹介します。今までの都市環境林については、明確な管理方針がない中、現状に合わせつつも、画一的な手法で管理を行ってきましたが、このたび、人口林と自然林を区別した管理手法や三つのタイプに分類した保全と活用の方向性を示した都市環境林管理方針を策定しております。今後は、順次、個別の都市環境林の管理計画の策定に取り組んでいく予定です。

7ページをごらんください。

自然歩道についてです。

八つの自然歩道を紹介しており、下段にはルート別の年間利用者推計を記載しておりますが、アンケート結果と同様に、藻岩山ルート、円山ルートの利用者が多いことがわかっております。

簡単ではございますが、議論の参考としていただくため情報提供をさせていただきました。

資料の説明は、以上でございます。

**○愛甲部会長** 膨大な資料の説明をありがとうございました。

一度にたくさん見ていただきましたが、分けて皆さんにご意見を伺いたいと思います。

まず、アンケートとワークショップの結果について報告がありましたが、質問などがありましたらお願いいたします。

**○三上委員** 公園についてのアンケートについてです。

「自宅の近くの小さな公園が活用されているか」という質問がありますが、どの公園を指して活用されているかは回答者によって違いますよね。そこで伺いたいのですが、地区ごとの傾向みたいなものはありましたか。例えば、都心とそうでないところ、あるいは、区ごとの傾向など、もし分析されていたらお願いします。

**○事務局（仁宮みどりの推進課長）** データはあるはずですが、そこまでの分析はまだし切れておりませんので、分析し、後日にお示しできればと思います。

**○愛甲部会長** 区ごとの分析はしてありますか。

最初は、郵便番号を書いてもらおうかなど、いろいろな議論があったのですが、結局、アンケートではどういうところにお住まいかという聞き方になっていましたよね。

**○事務局（仁宮みどりの推進課長）** 区ごとで見ますと、「活用されている」という回答が多かったところは、東区や手稲区でした。一方、「どちらかという活用されていない」という回答が少し多かったのは、北区や南区でした。

また、区の中でも駅に近いところと郊外では違うなど、その辺を分析するとより詳細なものがわかってくるかと思いますが、区別のものとしてはそのような結果となっております。

**○愛甲部会長** 私から一つ質問します。

冬の公園の利用の仕方として雪置き場の需要が非常に高いですね。実際に雪置き場として使われているところが多いと思うのですが、公式に使っていることになっている公園は全体のどのぐらいとなりますか。

**○事務局（中西みどりの管理課長）** 札幌市には公園が2,700か所ありますが、そのうちの1,280か所ぐらいだったと記憶しております。数字がわかりましたら、後でご報告申し上げます。

基本的には街区公園の利用となりますが、街区公園が全部で2,300か所あり、そのうちの1,200か所ですので、六、七割は活用されているということになります。

○**愛甲部会長** ほかにいかがですか。

○**小泉委員** 今のことと関連した質問ですが、雪置き場としてはそれで足りているのですか。それとも、もっとふやさなければいけないのか、その辺はどうでしょうか。

○**事務局（中西みどりの管理課長）** 公園自体は、冬でも、遊び場となるなど、公園としての活用をしていただきたいという面はあります。その上で、雪置き場として活用できる公園についてですが、地域の要望により、地域の方々が責任を持って維持管理していただけるところについて、市役所と地域、主に町内会ですが、協定を結びまして、雪置き場として活用しているところにして、ただいまのお示しした数字が地域の要望数となります。

○**愛甲部会長** 導入されてから大分たちますけれども、増減の傾向はあるのですか。もうとまっている感じですか。

○**事務局（中西みどりの管理課長）** 毎年増えており、平成29年度ですと、新規で25か所増えております。その前の年度では70か所、その前の年度では60か所ですと、一定の増加傾向でございます。

○**愛甲部会長** アンケート結果とワークショップについて見ていただきましたが、これからはそのほかの点についてお話をしていきます。

ただ、私が気になったのは、アンケート結果とワークショップでの意見の両方で都心のみどりが少ないという指摘が共通して出てきていることで、資料でもそれに関連して参考になるような事例も紹介していただいているわけです。

小篠委員は前回ご欠席されましたが、都市の景観とみどりととの関係についてコメントをいただき、それを皆さんにご紹介させていただきましたけれども、この点についてご意見を再度伺いたいと思います。

○**小篠委員** そこをどういうふうに掲載するのが今度のみどりの基本計画の中では一番大事なのではないかと私はかたく信じているのです。

都心のみどりが少ないと思うことについて、もう少しベーシックなデータ、数値的なデータを出してみるとすぐわかるかなと思うのだけれども、都心の中で一番多いのは私有地です。私有地率が高く、公有地率はすごく低いのです。ただ、公有地になっているところにはみどりがあることが多いわけです。例えば、大通公園や道庁の前の池のあるところがそうです。しかし、そうしてそこのみどりの率は高いかもしれないけれども、私有地側のみどりの率が低いから、全体的には都心の中ではみどりが少ないというふうに見えてしまうし、そういう状況になっているという認識がまず必要だと思うのです。

そこで、みどりをふやそうということですが、それは民間に協力してもらわなければならないことだということなのです。このように緑化率などが言われ、民間が再開発をやろうとしたとき、あるいは、建設行為をやろうとしたときにはこれだけのみどりをつくってねというふうにやっているのだけれども、それは民間に対してすごく負担になるから、それだけではどうもうまいかないわけです。それで、バンクーバーやポートランドの事例となるのです。

特に、ポートランドのエコディストリクトの大きな絵が非常に典型的です。ZGFと書いてありますが、全米で一番高い評価をもらっている設計事務所の本店がポートランドにあって、そこが描いている絵なのですね。それで、この絵は何を見せているかというところ、この絵の書き方でよくわかるように、民地側だけのことを言っているわけではないということです。駐輪場があって、ちょっと引っ込んだところにパラソルがあって、そこにはマーケットが、あるいは、オープンカフェがあります。また、街路側のところには、かなり太い植樹帯があって、高木と低木もきちんと植えてあるというふうに全体の絵を描いているのです。

だから、誰に物を言っているのかということ、両方に言っているわけです。公的な側と民間の側の両方に対し、これだけみどりを創出するように努めましようと言っているのです。エコディストリクトというのがポートランドの都心部に4か所か5か所ぐらい指定されていて、そののつくり方について、こういうガイドラインで行きましょうねと決めているのです。

つまり、どういうことかということ、両方が出し合いながらみどりをつくっていかないと、都心部に来た人たちに対して魅力的なみどりがあるとは認識されないということです。そうしたルールみたいなものをつくれぬのかという話です。ポートランドは姉妹都市なわけです、向こうがこれだけ先行してやっているのですから、札幌市だってそういうことを少し考えてもいいのではないかとということです。

そうなってくると、話を進めてしまいますけれども、今までの緑化率や緑被率というようなことではだめなのです。両方に目線を配るということで、緑視率でやっている市町村がありますよね。大阪や神戸がやっていますけれども、緑視率とすると、みどりをパブリックが持っている場合もあれば民間が持っている場合もあるというような形の中で見えてくるわけですし、まさにZGFが描いている絵はみどりに見えた場所についての絵なのですね。こういう両方にまたがるようなルールをつくっていかないと、都心部におけるみどりの創出をみんなでやっという話には多分なっていないだろうと思います。

もちろん、その後どう管理するのかという話がずっと続きますけれども、まずは作り出すという中のルールづくりとか、ガイドラインづくりを今回のみどりの基本計画の中で盛り込まないといけないわけで、はっきりと言って、みんながそう思っているのです。僕らもそう思っているわけです、それをいよいよ解決していくという方向性をもう少しきちんと打ち出していくことがすごく大事なのではないかとことを申し上げたいと思います。

**○愛甲部会長** 緑視率については、実は前回もかなり議論があって、やはり緑視率は大事だよという話を結構していただいていたのです。片山委員もそういう話をされていただけけれども、今の小篠委員の話につけ加えてありますか。

**○片山委員** この間の議論では、それをどうやってはかるのかというところに質問がついていて、私もそういう感じだったのですが、小篠委員からいいアイデアは何かあ

りますか。

**○小篠委員** 細かい手法の話をするとうごく長くなりますが、それを今議論するよりも、そういう見方で大きな枠組みをつくっていくことがまず大事であって、細かい話は、条例など、そちら側で具体的に詰めていけばいいのかなと思います。

壁面に対してどれぐらいか、あるいは、道路幅員の歩道部分に対してどれぐらいの幅を、というようなことを決めていけば、ZGFが描いている絵のことは決めていけますので、それはそんなに難しいことではないかなと思います。ただ、このイメージを共有化できるかどうかのほうが大事だと思います。

**○愛甲部会長** みどりの基本計画の中でどこまで書けるかという話の一つありますが、緑視率について、数値のはかり方も含めて書いてあるような自治体もあります。ただ、今のお話を聞いていると、考え方としては、目に見えるみどりを都心の中にとにかくふやすというような大きな方針を掲げておき、どういうふうに測るかや、どういうふうに達成状況を評価していくかについては、アクションプランというか、施策の中に取り込んでいくという整理もできるのかなと思います。

逆に、前回、吉田委員からは、都心のみどりはそんなに要らないのではないかと、郊外のみどりをもっと大事にしたほうがいいのではないかと話もありました。それを聞いて、その後、それは何でだろうとずっと考えていたのですね。

というのは、札幌らしいみどりとは何ですかと私が皆さんに前回伺ったとき、郊外の山のみどりが見えて、手前のみどりも見えていてとおっしゃっていたのですね。また、都心のみどりが少ないということが市民アンケートでもワークショップでも出てきています。つまり、最近、ビルの高層化などが進んできて、僕がいる北大あたりもそうですが、手稲山や藻岩山などの郊外のみどりがだんだん見にくくなってきているのではないかという気がしなくもないなというようなことを感じたのです。ですから、遠方のみどりがちゃんと見える場所をきちんと確保するという考え方も必要かなということなのです。

緑視率というと、視野に入る範囲に関し、一眼レフで写真を撮って測るパターンが多いのですが、そういうことではないのではないかなと思ったのです。

この間に緑視率の話をしていたとき、樹木というのは季節によって変化していくので、というか、冬はまた状況が変わるので、その辺も含めて価値づけする必要があるのではないかなという小泉委員がお話をしてくださいましたが、そういう札幌らしいと感じるみどりもあるかなと思います。

**○小篠委員** 札幌らしいみどりとは何かとか、何でみどりが必要なのかという議論では、みどりの物量があればいいという話ではないわけです。だから、今みどりがあるのだからこれでいいというふうに言う人がいても全然おかしい認識ではないと思うのだけれども、みんなは何が足りないと思っているのかという話に行くわけで、それは都心に魅力がないということなのです。それをみんなはみどりに代弁して言っているという話なのです。

もちろん、緑陰があれば、こういう暑い日だったら休めるとか、そういうことがあるか

もしれないし、目に潤いを与えるという効果があると言えはありますが、一番大事なのは、みどりのある場所がみんなも使える場所になっているのかという話になるのです。そうした場所がなく、ビルばかりになってしまい、それは誰かが所有していて、その所有している人たちしか使えないわけです。このように、みんなが使えるような場所がないものだから都心に魅力がないと言うのです。でも、みどりがあるところは割とみんなが使える場所だよねというような感じの中で物を言っているのではないかなというふうに深読みすることができるのではないかと思います。

**○愛甲部会長** アンケートで「都心の公共及び民間施設にどのようなみどりがあるとよいと思うか」という質問に対し、「植物がある休憩できるまちかどのみどり」という回答が先頭に来ているのです。これは今おっしゃっていたようなことで、見えるみどりがあると同時に、自分がそこに入っていき、そこに座ったり休んだりできるということを言っていて、結局、見えていたとしても触れたり感じたりできなければ意味がないということですよ。そういうみどりをふやしてほしいということに対し、そういうことをどうやって具体的に実現していくかですね。

ただ、これには技術的な部分もかなり含まれてきます。おまけに東京でやっているような手法全部が北海道で使えるわけではなく、こちらでは冬の問題もありますので、技術的に難しいものもありますが、取り組まなければいけないことなのかなと思います。

小泉委員から何かコメントがあればお願いします。

**○小泉委員** 小篠委員がおっしゃったことはごもっともで、緑視率が大事になっていくと思います。前回は話がありましたけれども、結局、緑視率ということからいくと、借景としてのみどりも入ってくるので、近郊の山が確かにみどりであれば、それで満足だと思うのです。

しかし、アンケート結果を見ますと、「札幌の原風景として思い描くものは、どのようなものか」という最初の質問に対し、やはり、原風景としては「山に見える風景」という回答が出てきていて、決してみどりが足りないという印象ではないのではないかと思います。

また、2ページの間5-1ですけれども、このように「都心のみどりは足りていると思うか」と質問されたら、それは足りないということになると思うのです。それは、そこにみどりが余らないわけですからね。ですから、こういう質問をすれば、どちらかといえば足りないという回答のほうが多くなるのかなと思います。

でも、総体として足りていないのかについてはこの質問からは読み取れないかなという気がします。

そして、愛甲部会長がおっしゃったように、今、市街地では特に高層ビルがどんどん増えてきたので、どうやってみどりを見せるかという都市計画も大事になってくるでしょう。また、ビルに囲まれたところで緑視率を上げるということであれば、壁面緑化など、そういうことも考えなければいけないのかもしれないけれども、本当にそれは必要かどうかと

いとなかなか難しいと思うのです。それは、居住区なのか、それとも、オフィス街なのかでも違ってくると思うからで、その辺をどう整理するかは難しいのですけれども、考えなければいけないかなと思いました。

**○愛甲部会長** 吉田委員からこの点についてご意見は何かないですか。

**○吉田委員** 皆さんがおっしゃるとおりで、こういう会議に出てきて、お昼ご飯を食べよかなと思ったときに、店に入らずに外でちょっと座ってという場所がほとんどないのが札幌の特徴だと思います。ですから、単純にみどりをふやしたいのだったら大通公園をそうしてしまえばいいと思うのです。でも、こういう利用をしなければだめだ、イベントに使わなければいけないということがあるから市民はわからなくなるのであって、そこについては公園計画の中で札幌らしさをしっかりと追求することだと思います。

また、アンケート結果などを拝見して思ったのは、都市のみどりから大気汚染とか二酸化炭素というふうにつなげるのはやめるべきではないかということです。それは、ちょっとのことで何とかというものではないからです。それが一番の大きな風呂敷になりかねないのですが、決してそうではなく、札幌らしさというのは住みやすさであるということはどう示すかだと思います。

**○愛甲部会長** つくっていただいた資料でもう一つご議論をいただきたい点があります。話が戻る部分があると思うのですけれども、資料3の一番冒頭の「札幌市のみどりの評価」についてです。

片山委員がおっしゃっていたことですが、現状でどこまで到達し、どう評価されているかをきちんと整理したほうがいいのではないかとということで、2ページの部分をつくっていただきました。これがイメージされていた整理なのかどうかも含めてお願いします。

世界が憧れる都市景観をどのようにつくってきたかという自己点検評価について小篠委員がおっしゃっていましたけれども、そうした具体的なことについて、ここで整理してあるようなことで対応できているのかどうか、あるいは、到達点をどう評価されているのかを伺いたいと思います。

**○小篠委員** 以前につくってきたというのはよくわかるよね、ということです。大通公園は残っているけれども、偕楽園はもうないわけです。ですから、これはずっと残している、維持しているよというところのよさみたいなものがここには書かれるべきなのです。つくったよという事実だけをあげつらえばいろいろなことがあるのだけれども、それがなくなっているということが都市の新陳代謝の中で起きるいろいろな事象だと思いますので、そこをまず書かなければいけないと思います。

また、上は時系列で、下はエリアのことですが、その評価がないのです。どういうことかというと、大ざっぱに言えば、周辺の緑地についてはきちんと保全されているし、そこに対しての網かけも非常にきっちりやっていて、都市側でも自然側でもダブルでかけているでしょう。いわゆる都市計画区域の中で風致地区をかけているし、緑地の規制もかけていますよね。そういうふうにしてダブルでかけているところは余りないと思うので、それ

で山並みが保全されている、里山が保全されているとは言えるのだけれども、この次がなくて、真ん中がどうなのかということにおいて施策が何もないということがきちんと書かれなければいけないのかなという気がするわけです。

都市計画的にいうと、都心部と既成市街地という言い方ですけれども、そこに対してのみどりづくりの施策が実はないということの評価しないといけないと思います。大きな基幹公園はつくられているのだけれども、暮らしに潤いを与えとか身近な暮らしが非常に豊かにできるとかというのは、吉田委員の言っているように、ちょっと外でご飯を食べてみようかなとか外で本でも読んでみようかなとか、時間ができたときにそう思えるような場所の選択肢が余りにもないということです。多分、大通公園はそういうつもりでつくっているわけではないし、簡単に言えば、業務地と市街地を分けるための都市計画的な公園で、防火帯でもあるというぐらいの意図しかもともとない場所で、人間の普通の生活の中で欲しくなるようなスペースが都心の中に余り施策的につくられてこなかったということです。

特に、南側は、京都のまち割りをそのまま使おうとしてやっているわけですから、本当に密集して建てていくということを前提としていますから、そんなところにゆとりのあるスペースみたいなものをつくろうということは何も考えていないわけです。はっきりと言って、高密に建っていても構わないと思ってやっているわけですが、そういうところが非常に欠けているというような冷静な見取りをやっていいのではないかと思うのです。

だめだと言っているのではなく、こうなっているという事実をきちんとっておき、それに対して私たちはどう考えればいいのかと持っていったほうがいいということです。

**○愛甲部会長** それをやることによって、先ほどの都心の話になるのですね。

**○小篠委員** そうです。それをちゃんとと言わないと、きちんとした土台の上に立脚できなくなり、ずっと流れて話が断ち切れになるような状況になってしまうのではないかということです。

この話は都市計画と非常に密接に絡むのですが、都市計画の方向にみどりも踏み込んでいかないと、あるいは、共同してやっていかないとできないのではないかと思います。みどりのテリトリーだけでやっていてもできない部分が今課題として浮上しているという認識をちゃんと持つことが大事なのではないかということです。

**○愛甲部会長** この点について、片山委員からまち中でのオープンスペースの使い方みたいな話を前回していただきましたので、ご意見を伺いたと思います。

**○片山委員** 私は、これをまとめるとき、これからどうしていくのかについて、一般の市民にわかりやすい冠の文章をつけてほしいとお願いしたのですけれども、今の段階では文章化されていないですね。

2ページにある赤色の字や青色の字の部分がキーワードにこれから文章がつけられるというふうにお聞きしていたのですけれども、目玉になる施策がどういうことになるのかが今見えていないので、なかなか文章化されないのかなと思っています。

先ほどからのお話では、多分、二つぐらい焦点があって、都心のみどりの問題と都心以外の地域の街区公園を初めとした身近な小さな公園で、アクセシビリティがよく、高齢者だったら簡単にボランティア活動ができるようにしてほしい、参加の申請が簡単な仕組みにしてほしいというものがあり、この二つのやらなければいけないことがあると思うのです。

一方、郊外のみどりの話になってくると、どんどん高齢化が進んできて、介護保険も余りうまくいかなくなると、要支援の人たちはなかなかデイサービスも使えなくなって、資源があるのに使えないとなってくると、例えば、介護予防センターやデイサービスセンターなんかと連携して、介護保険事業というか、保健福祉サービスとして、そこでボランティアをするとボランティアポイントが付与され、ポイントがたまると地域の商店街でお買い物ができるというように、人口動態とコミュニティーの問題と絡めて、もう少し社会的に見たときに、みど리にはこういう役割が今後出てきますというような感じの文章が、これからの札幌というか、日本には意味が出てくるのではないかと思います。

**○愛甲部会長** 非常に重要な視点で、ほかのいろいろな計画や分野との連携が必要という一部にそれも入ってくると思います。また、片山委員がおっしゃる文章がないというのは、小篠委員もおっしゃっていましたが、評価をしていないからということですね。

これまでのみどりの評価というのは、公園と緑化と街路樹ということが都市のみどりの風景、また、オープンスペースの配置というふうに分けて受け取る側として総合的に感じられるわけです。しかし、その施策はそれぞれ別々の部署で行われるので、みどりの基本計画もそうですが、街路樹と緑化と公園は別々に計画や施策が出てくるわけです。それでは、一体としてはどんなまちをつくりたいというものが無いということではないかと思います。

**○小篠委員** そういう意味で言うと、資料3の6ページの「重視すべき視点」の①の青色の文字のところに「まちづくりと連動してみどりのオープンスペースを創出する」と書いてあるのですが、これはすごいキーワードですね。まちづくりと連動していて、しかも、みどりのオープンスペースと言っていて、公園とは言っていないのです。

オープンスペースというのは、公園だけではなく、パブリックに開かれた誰でもアクセスができる場所のことを言っていると私は理解しますので、公園施策の話飛び越えて、都市の中におけるオープンスペースをどうつくっていくのかというところに踏み込んで考えていかなければいけないということを宣言しようとしているのかと思うくらい強い言葉だと思うのです。このようにキーワードを書く背景をちゃんと文章化しておかなければいけないということだと思います。

その下に都市の魅力の話も出てきますが、こういう四つのお話を束ねた一つのセンテンスが要るのだと思います。芽は出ているので、これをちゃんと書けばいいのかもしれないと思います。

**○愛甲部会長** まさにこの部分がそれをおっしゃっているのだと思います。その背景になるような数行のセンテンスやそういう文章のほかに、できればイメージが欲しいですね。

それこそ、先ほどのポータランドの例にもあったようなイメージです。

**○小篠委員** あれは非常に強烈なものだと思います。

**○愛甲部会長** そういう考え方を背景とするようなものですね。

みどりの推進部としてどこか特定の自慢できると思っていらっしゃる場所でもいいと思うのですが、こういう場所をふやしていくというメッセージが強くと出ると、よりわかりやすく、どういう方向性を向いていっているかが伝わるのではないかと思います。

**○吉田委員** 過去のみどりの評価について、私自身の違和感を一つだけお伝えさせていただきます。

明治期、大正期、まちの拡大期というのはよくわかるのですが、拡大期になったときに、突然、グリーンベルト構想に変わって、全体論の話をしているのです。生き物屋の観点から言うと、こんなものをつくったからみどりがなくなったのだというのが明治期です。それなのに、最後にもう一回みどりをつけますという無理やりな絵にしか見えないのです。だから批判しているわけではなく、明治期はこうだった、大正期はこうだった、現在の都市の公園はどうかという縦割りの話になるかもしれませんけれども、一気に飛び過ぎだと思えます。

「だから足りない」というのならわかります。こういう区画をしたから、中央区がまだ足りないとか、こういうところに課題があるというものがここに来るべきであって、それをうまくつなげてどうのこうのと言って、環境に優しいまちづくりみたいに見えるのですが、それをするのだったら、この絵の構造では最初から間違えていたということになるので、ちょっと違和感を持ちました。

**○小篠委員** これは、解釈の仕方というか、物の言い方だと思います。

第4次札幌市長期総合計画でネットワーク計画をつくったときにどういうことを考えたかという、都市公園だけではなく、河川敷や送電線の下の余った敷地など、そういったところを全部同じ目線で見たとときに、それはネットワークという見方ができるのではないかとこのことを言っていたのですが、その先の施策がなかったわけです。そういったものを全部つないで、そこに人々が使えるようなスペースを投入していきましょうみたいなところまで行けばすごかったのだらうと思います。

認識としては、ばらばらの部署がばらばらに所管しているのではなく、そういう場所は一体的に見るべきなのではないかというのが第4次札幌市長期総合計画のネットワーク計画の中で言われていた一番大事な柱であって、それはいいかなと思うのです。ただ、その先、今、私が申し上げたようなところまで行けばよかったけれども、実はそういうところがなかったねという話の一つあるのです。

そして、もう一つ、都心の話です。外側にスプロールしていった時代に真ん中のあんこがなくなってしまったということで、それがここまで急成長した札幌市の中において一番の課題として残っているのだと認識していいと思います。

**○愛甲部会長** 次にお伺いしたい点は、「ひと」のところですか。

前回は話が出ていて、今回も追加の参考資料として幾つかあります。都市公園の再整備の方針が出てきて、足りていないところについて非常に詳しい資料をつくっていただいています。これは今回初めて出てきた資料ですね。

**○事務局（仁宮みどりの推進課長）** はい。

**○愛甲部会長** 参考資料の5ページに、ボランティアリーダーの育成や継続的に活動できる方策が必要ということで、支援拠点を主要な大きい公園のところに設けるということがあります。また、右下のところには、公園の活性化に関する協議会を設置するという話も出てきています。

アンケート結果では、ほかの項目に比べ、「知っているが参加したことがない」とか「知らない」という回答が非常に多かったのですが、ワークショップにはそういうことに関心のある方が参加されたので、いろいろな意見も出てきているわけです。ただ、このあたりについて皆さんのご意見をお伺いしたいと思います。

参加する市民にとって、どういう活動の場とすればいいか、活動しやすくするにはどうすればいいかということですが、三上委員からご意見があればお伺いしたいと思います。

**○三上委員** 先ほど質問すればよかったのですが、ワークショップには関心がある方が集まったのではないかと思います。そこで、例えば、こういう活動だったら参加したいと思うとか、活動するためにこういうものがいいとか、そういうお話があったのではないかと思います。印象に残った点だけでも構わないので、お伺いします。

**○愛甲部会長** 私もワークショップに参加しましたが、三つのテーブルに分けて、「自然・環境のみどり」、「都市・まちのみどり」、「みどりを楽しむ人」ということで、人に関する項目も設けたんですね。しかし、結局、どこのテーブルでも人の話は出てきていたように思います。

それでは、事務局からお願いします。

**○事務局（仁宮みどりの推進課長）** 私もワークショップを見学しまして、いろいろな意見が出ましたけれども、やはり、身近なところで活動をすることで心身が健康になっていくことに価値を感じているなどというご意見が印象に残っています。

**○三上委員** これは前回の議論にもあったと思うのですが、みどりの価値の議論をするとき、ほかの政策領域との接点に新しい価値を見出していくというか、そういう可能性があるのだということがありましたし、都市食料政策の話をご紹介したと思います。

まとめていただいたワークショップの結果を拝見しても、例えば食、あるいは、今ご紹介いただいた健康、また、森林やみどりの保全など、いわゆる自然保護の活動として参加されている方もいらっしゃると思うのですが、そこを広げるときには、関連する領域があるのだと思います。ここで言うと、食、健康、それからスポーツみたいなこともちよっとあるのかもしれませんが、そういうところに活動を広げていく領域があるのだと思います。

現在、みどりを保全する活動に参加している人はいらっしゃいますかと聞くときのみどりを保全する活動という範囲がやや限定的なので、ふだん、別の部分に関心を持っているような活動に参加している方にも参加していただけるように活動の種類をふやすということもありますし、そういうテーマにも関係があることなのだと思いますという発信をしていくことが大事だと思いました。

**○愛甲部会長** 食や健康にかかわる活動をされている方に公園を使ってみたいかどうかを聞いてみるなど、そういう観点でみどりについて見てみるということですね。

**○三上委員** そうですね。

**○愛甲部会長** これはアンケートなので、実際にどのぐらいの方が活動されるかどうかはこの数値からは読み取れないです。それでも、身近な公園だったら参加してみたいという方が6割もいるのは予想よりも多かったと思います。先ほども説明されていましたが、交通費程度の費用の支給というのが多いと思っていただけれども、実際には自由度や情報が手に入るという回答のほうが多かったということがあります。

ただ、身近な公園に行って、すぐに何かの活動ができるかということ、何をしたいかわからないということがあります。例えば、ごみを拾ったとしても、そのごみをどこに置いておけばいいのか、捨てていいのかはわからないし、一般の市民の方はボランティア用のごみ袋を持っていないので、どうしていいかわからない状態になってしまうわけです。そうした部分を簡単に取り組めて活動しやすいような工夫をどうするのかです。

また、ここに挙がっている実際に活動されている方々がもうちょっと活動しやすいように工夫をしたほうがいいということになると思います。

前は、それこそ、ほかの領域との接点を持つという関係で木育のことや教育との連携という話が幾つか出てきていたのですが、小泉委員からそこについてコメントはありませんか。

**○小泉委員** 今の話もそうですが、先ほどからの議論の流れでいくと、今度の第4次で何を訴えるかという話がされていまして、第3次では「つなぐ」をキーワードに市民との協働を掲げたわけですが、その総括がどうなっているのかがまだちょっとわかりにくいのですが、この資料によると、団体や個人のボランティア登録者数は増えているけれども、それをつなぐコーディネーターや参加しやすい仕組みが必要だという総括なのかなと思います。

では、第4次では一体何なのかということで、最初のところですが、人口減少型の社会にどう対応していくかということが一つあったと思います。ですから、市民との協働ということで、ボランティアの参加など、実際に市民が使いやすい形にどうやって公園を変えていくか、あるいは、維持していくかということも大事になってくると思います。

今、愛甲部会長もおっしゃったけれども、アンケートの結果を見ますと、問7-3ですが、「参加したくない」という回答が1割しかないのです。これは、9割の人は参加してもいいと言っているということだと思います。ですから、やり方次第では動いていくのだろうと思います。

今、ボランティアに参加される方は、どんな場面でも非常に多くなっているということもあるので、そういうところに期待して、そこをどうコーディネートするか、どういう仕組みをつくるかが一番大事かもしれませんね。そこで、木育など、単に公園を維持するだけではなく、そこを場としてどう活用するかというボランティアの団体に幾つか入ってもらい、そこに丸投げではダメなのでしょうけれども、ある程度任せてやっていくことが大事なのかなという感想を持ちました。

**○愛甲部会長** それでは、小篠委員、お願いします。

**○小篠委員** 質問に対して答えているだけなので、そういう意味ではわからないところがあるのだけれども、本当に知りたいことは、皆さんが何でボランティアに参加したいと思いはじめているのかではないかと思うのです。

例えば、住んでいる場所に対しての愛着をもっと持ちたいがためにその環境をよくしたいと思っている、あるいは、地域との関係が余り結ばなくなってきている今の社会において、それを取り戻すために地域活動に参画したいと思っている、しかし、町内会活動は高齢の方ばかりで固定化されているので、そこには参加したくないけれども、ボランティアだったらやりやすいし、特に公園ということであれば、身近なものであるから非常にやりやすいのだなど、その辺のことがわかって初めて9割の人が参加したいと思っている、何かをやりたいと思っているというところまで見えてくれば、小泉委員がおっしゃるようにがんと進めていくということはできると思います。

しかし、今は、その背景が余り理解できないのです。今の私の発言の中には当たらずといえども遠からずというところがあると思いますけれども、そういうことかなのかを本当はわかっていたいという気がします。

そういう非常に意識がある方がたくさんいらっしゃるのだったら、そちらの方策をどんどん進めていけばいいかもしれないし、その先には、パブリックスペース自体の維持管理を、市民と協働して、あるいは、市民だけではなく、企業も含めたPFIでやっていくという話になっていくという道筋が見えていくわけですが、そのずっと手前のところには、公園というパブリックスペースを使っているいろいろな人たちが参加する場を提供し、ここには教育も木育も含まれるかもしれませんが、ボランティアの人たちに協力してもらいながら、いろいろなイベントをやっていくということになるわけで、その辺の狙いをどこに定めていくのかを今回の改定のときに言っていかなければいけないと思います。

何となく、「ボランティア」、「参加」というぐらいの話でまとめず、目標をもう少しシャープに持っていったほうが良いという感じがします。

**○吉田委員** そういう流れの中の話だと思うのですけれども、左側の拠点の図と右側の意見がほぼマッチしていないと思うのです。というのは、左の図で示された公園は、皆さんがごみ拾いをやりたいと言っているからこの辺でやりましょうといっても、指定管理者がいるところなので、もうきれいなのです。

例えば、右下に協議会の話がありますけれども、平岡公園が札幌でも最初のほうに協議

会をつくってやった公園だと思います。私も協議会のメンバーでずっと仕事を一緒にさせてもらっていますが、地元の方がやりたいことは何かというと、ここは細い木ばかりなので、明らかに間伐しなければいけない林がいっぱいあって、台風が来たら倒れるよね、間伐したいよねと言っているけれども、公園の管理上は伐採が禁止されているから、指定管理者のほうでもできないし、さらに、民間でやろうと思っても市民ではできません。でも、そういうことをやりたいという人たちは結構いっぱいいるのです。でも、そういう方向性になっていないのです。でも、このまま出せば、みんながやりたいのはごみ拾いなのだからとして、無理やりボランティアでごみ拾いの活動をするようにと指定管理者に話を投げていっても、ほとんどやることがないのです。

一方、こういうきれいな公園ではなく、ちょっと離れた山林に行く途中の林道際の不法投棄がたくさん起こっているようなところは人が必要ですが、そういう話とは全くつながっていないのです。

ですから、どういうボランティアをどういう公園でやるかというニーズをしっかりと合わせていったほうがいいと思います。今後はそういう話になると思うのですが、この左側の地図と右側の意見が余りマッチしていないので、少し不安になっています。

**○愛甲部会長** この左側の図については私から話をします。

これは、ここで活動してもらおうということではないのです。ここで言っているのは、これ以外の小さい公園で活動しているボランティアの皆さんが企業を含めていっぱいいるのですが、そういう方々が相談に行く場所がないのです。道具を置いておくとか、講習を受けるとか、何か活動をしたときにアドバイスを受けるとか、保険をかけるとか、細かいことがいろいろとあります。

そういうとき、通常、公園ボランティアの場合は土木センターが窓口になっていますが、指定管理者の管理事務所がそういう窓口になれば、もっと行きやすいし、直接的なアドバイスも受けやすいし、道具を借りたりもできるのではないかと、これからそういう可能性を考えてもいいのではないかと議論があつてつくられた図なのです。

もちろん、それぞれの場所でもボランティアが必要で、吉田委員がおっしゃったように、平岡公園や西岡公園など、郊外にある公園ではそれぞれやらなければいけない活動が全然違いますから、実際の活動内容も含めて、ボランティアの皆さんと相談しながらやれるといいと思っています。

**○片山委員** ボランティア活動の中にある思いを考えたとき、地域の中の居場所だと思ったのです。今、コミュニティーレストランが全国に何千か所まで広がっていますが、あれは、交流ということで、みんなでおしゃべりをしましょうとか運動をしましょうとかといってもなかなか参加しにくいけれども、何十年も家族のお料理をつくってきた女性が地域にたくさんいるので、食事をきっかけに2次的に交流ができるコミュニティーレストランっていいねとなって、どんどん広がっていったわけです。

そのように、地域の皆さんは何も大通公園まで行ってごみ拾いをしたいわけではないと

思うのです。自分の身近な公園、自分のテリトリーにある地域をみんなで大事にしたいということなのです。ですから、お掃除を目的に集まるのだけれども、そこにだんだんコミュニティーができ、自分の居場所ができ、頼れる地域の仲間もできてくるというふうに、コミュニティーの中に自分の居場所ができるのではないかという期待も含めたボランティア活動ということが思いの中にあると思うのです。

ですから、コミュニティー醸成のきっかけとなり得る街区公園の中の清掃活動という視点で深掘りしていくと意味が見えてくるのではないかと感じました。

**○愛甲部会長** 小篠委員がおっしゃっていた愛着とも関係ありますけれども、非常に大事な部分で、私も、いろいろな方と話していると、そういう動機の方が結構多いような気がしています。

その一方で問題があって、その次のページに都市環境林の話があります。森林関係のボランティアは、中間評価でも目標を達成できていなくて、なかなか大変だという話があるのですが、これをどう活性化していくかです。

要は、郊外のみどりを守るための市民の皆さんの参加をどう進めていくかというあたりも大きな課題ですが、これについて何かご意見がありますか。

小泉委員、いかがですか。

**○小泉委員** 今、片山委員から話がありましたけれども、森林ということになると、自分の居場所ではなくて、出かけていくところですから、そこでボランティアを熱心にやろうという人がいないというのはそのとおりだと思います。災害でもあれば集まるのでしょけれども、日常的にそこを手入れすることはなかなかできないと思うので、むしろ、ボランティアというより、NPO的な団体に相談するなり一緒にやっていくのがいいという気がします。

それはまちの中の公園でもそうだと思うのですが、オープンスペースのみどりを利用した活動ということになると、リーダーが出てこない、ボランティアだけではなかなか難しいと思うのです。そういう活動をしている既存のNPOは結構ありますので、そういうところと連携していくといいと思います。

それも含めて、第4次みどりの基本計画の中の市民との協働、連携というところはポイントを絞って推し進めることが大事だと思います。

**○愛甲部会長** 話を先に進めますが、基本計画の構成の部分についてご議論いただきたいと思っています。

資料の5ページ以降の基本計画の策定についてです。

基本計画の構成を自然・環境、都市・まち、ひとという三つの柱とし、意義から現状、将来像、取組の柱というところまでそれぞれ3本の柱で通していただくように整理をし直していただきました。そして、施策の方向性や優先順位を考えると6ページに書いてある四つの視点が加わって7ページ以降になるということです。

ただ、7ページ以降について、施策のイメージもまだ全部はと先ほどおっしゃっていま

したし、この丸が全部ついているかどうかはこれから中身の検討が必要だと思いますが、今日は、直していただいた5ページの基本計画の構成（案）と6ページの重視すべき視点について皆さんのご意見を伺っておきたいと思いますが、いかがでしょうか。

**○小篠委員** 左のダイアグラムの流れで三つの柱を立てて、取組の柱まで持っていくのは割とわかりやすく整理されていると思いますが、重視すべき視点の四つの玉をどうやって滑り込ませるのかというところがちょっとわかりにくいですね。

ですから、取組の柱まではいいのですが、取組の柱からいきなり施策の方向性と持っていくと、この四つの玉が入ってくる余地がなくなってしまうので、取組の柱と重視すべき視点がどう関係しているのかを一度整理した上で施策の方向性が出てきたほうがいいのではないかと思いました。

**○愛甲部会長** 取組の柱から下の部分ですね。

いかがでしょうか。

**○吉田委員** 賛成です。

上から見て、取組の柱までは、すごく行政的というか、しっかりできている感じがします。何となく理論的に武装していることがよくわかります。

例えば、一番上の自然環境の保全とあって、一番下のところの丸は持続的な森林の保全、活用となっていますが、ここまでは要らないなという感じがします。環境の保全には森林の何とかという当たり前のラインのところを無理やりつなげているようにしか見えません。

ですから、もしここに書き込むのであれば、その下にもう少しはっきりしたものでないと、当たり前のことを書くためにつくった箱というふうにはしか見えませんし、施策の方向性が普通過ぎると感じます。

**○愛甲部会長** 前回のものだと、みどりの将来像まで来ていて、その下に重視すべき取組の柱が四つ挙がっていました。

私が違和感を持ったのは、それぞれ将来像が三つあって、取組の柱が三つの分野ごとにあってというのはいいのですが、どうして取組の柱となった途端に「重視すべき」という言葉が出てくるかがわからないのです。前回の部会の資料でいくと、まちづくり戦略ビジョン等から、あるいは、札幌市全体としてまちづくりに重視すべき視点をそこに組み入れると、こういう取組の柱が出てきますという整理になっていたのです。

今回の場合は、まず、みどりのほうで三つの分野ごとに将来像からどういう取組をしていくかを整理した上で、横からというか、上位計画であるまちづくりビジョンのほうから四つの柱を持ってきてという整理になっています。

**○小泉委員** 意義から始まる三つの話と、重視すべき視点の四つというのは、確にかみ合わないというところはあると思いますが、何かをやるときに、対象として分けるということと、そこにどうアプローチするかという手法をとるというふうに考えると、それは違っていても構わないと思うのですが、そこをうまくかみ合わせることが大事で、その辺が少しわかりにくい感じはします。

また、前にも言いましたけれども、人口減少社会というところとどう組み合わせていくのかです。要するに、放っておいたらみどりは減ることはないのです。これから人がどんどん減っていくわけですから、みどりは大丈夫だと思うのですが、その質をどう高めていくかという視点がどこに入ってくるのかなと思いました。

**○愛甲部会長** 小篠委員、どうぞ。

**○小篠委員** 先ほど取組の柱までにはいいのではないかと話しましたが、今の皆さん方の話を聞いていると、基本理念までにはいいのかなと思います。人とみどりが輝く札幌をつくっていかうということに対して誰も嫌だと言う人はいないわけです。ここはそれくらい大きな話なのですが、その中で、今の社会的な状況も含めて、ほかの上位計画の方針等も含めていろいろなテーマがあるねということ一度言った上で、将来像、取組の柱をどう考えていったらいいのかとしたほうがわかると思います。

その文章や将来像の言葉がこれでいいのかはありますけれども、重視すべき視点の置き方としては、基本理念のすぐ下に持っていったほうがよいと思います。

**○愛甲部会長** 基本理念と将来像の間に重視すべき視点が入ってくるということですね。

**○小篠委員** そうです。それをベースにした上で基本理念を実現するための将来像みたいな話が来ないと遊離してしまうだろうと思います。

**○愛甲部会長** 片山委員はどうですか。

**○片山委員** 段階がたくさんあり過ぎて、対応関係を見るのにすごく時間がかかる気がします。

また、この基本理念がどこの場所にも当てはまる感じで、子どもっぽい気がします。そこは、もう少し具体的で今日的なスローガンのほうがよいと思いました。

それから、最後の四つのキーワードのストックという言葉がその前のどこにも出てきていないので、唐突な感じがします。資源の有効活用の資源と同じ意味なのか、その辺の整理があるといいなと思いました。

**○愛甲部会長** 三上委員はいかがですか。

**○三上委員** 私も先ほど小篠委員がおっしゃったことに賛成です。

やはり、重視すべき視点というのは、今の社会情勢の基本的なことを言っていると思いますので、最後の施策の方向性を決めるときに出てくるのはやや後出しという感じを受けていました。資源の制約や市民ニーズが多様化していること、あるいは、全体的な環境の制約などは、将来像を決める前に早目に言っておかなければいけないと思います。これをどこに統合するのがスマートなのかは難しいのですが、重視すべき視点というのは、ある種、外部的な制約でもあると思いますので、早目に言っておいたほうがよいと感じます。

**○事務局（仁宮みどりの推進課長）** 事務局側の意図を申し上げます。

構成の5ページをごらんください。

一番上が札幌の価値を高めるみどりの意義ということで、これは簡略化して書いてありますけれども、三つに分けております。その下に、札幌のみどりに関する現状ということ

で、社会情勢の変化や市民ニーズの多様化、国の新たな制度ということで、6ページの左側に書いてあるようなことがここに書かれてくると思います。この中で、どう書くかにもよりますが、四つの重視すべき視点が今後必要になるということをおある程度語ることになると思っています。

ただ、最後の取組の柱を受けた施策の方向性という部分では、冒頭で触れたみどりに関する現状を振り返りながら、重視すべき視点をもう一度簡略化して再掲するイメージで、事務局として案をつくりました。

**○小篠委員** そうだとすれば、先ほど片山委員も言っていたけれども、基本理念に出てくるワードがそういうものをちゃんと捉えていなければいけないです。今は、非常に一般的な言葉になってしまっていますよね。重視すべき視点も踏まえて現状だと言っていくなら、これからの方向性や基本理念にはもう少し反映する言葉を入れておかなければいけないという感じがします。

**○愛甲部会長** 今の話を伺っていると、重視すべき視点は、みどりに関する現状のところとそんなに変わらないのではないかという気がしてきました。

事務局と事前に議論をさせていただいたのですが、なぜここにきているかについてです。実際の具体的な施策のイメージを7ページ以降に書いてありますが、そこを考えていく中で、今までの緑の基本計画で上がってきたことをそのまま同じように取り組めるわけではないですし、重点的、優先的に取り組むべきこと、逆に、なかなかできなくなることがあるわけで、その辺のめり張りをつけるべきだろう、そこで、重視すべき視点を持つてくることによってその重みづけを変えられないかという議論があって、こういう整理をしているのです。

結局、それは基本理念や将来像のところにかかわってくるのです。既に今の将来像の文章の中にも、「引き継ぐ」とか「まちの価値を高める」とか書いてあるので、この将来像は重視すべき視点の影響を受けているのです。ですから、これは部分的にだけ働くわけではなく、みどりの基本計画全体に横から社会情勢として影響する視点になるのでしょうね。

また、基本理念の文章については、平仮名が多いなど、ほかにも理由はあるでしょうが、子どもっぽいと言われれば確かにそうかもしれません。ここは審議会でも議論させていただきたいと思いますが、前回の審議会では、第2次、第3次の基本理念を修正はするけれども、主文のところは基本的に踏襲するという議論をしていました。

ただ、「札幌の魅力であるみどりを大切に、新たな価値を生み出し、みんな愛され世界が憧れる」という文章を、現状の第2次、第3次を受けて第4次になっていく過程の中で、今の議論の中身を踏まえた具体的な文章にできないかということかと思いました。

全体的な流れとして、この三つの柱でいくということはそれほど違和感なく受け取っていただいていると思いますが、重視すべき視点をどう整理して入れていくかということですね。その辺は、事務局でも少し議論していただいて、どういう整理をするとわかりやす

くなるかを考えていただければと思います。

**○吉田委員** 最終的にはお任せいたしますが、重視する視点が入った後に施策の体系ができ、7ページにあるような提案をしていきますというものがあると思います。でも、最終的にここを見ると、よくできていると思うのですが、一対一対応し過ぎだと思います。

これだからこれ、これだからこればかりで、例えば、上の1と2と3でいくのはいいと思いますが、正直に言うと、1と2と3でさえオーバーラップするところが絶対あるはずなのに、そこは無理だからということで、仮に1と2と3にしたとしたら、中間のクラスからオーバーラップが出てこないとだめだと思うのです。それがないから、結局、施策のイメージはどんどん出てくるわけです。

例えば、みどりづくりとか地域に愛されるという同じようなキーワードがいっぱい出てくるので、そのオーバーラップを見せられるような何らかの工夫があれば、これらがばらばらできていても何となくわかると思います。でも、このままでいくと、1から3まであって、その横にばつとある感じです。それは、下手をすると行政の無駄遣いと言われる可能性につながってくると思いますので、その辺は少し考えていただければと思います。

**○愛甲部会長** これだけいっぱい並んでいると、確かにオーバーラップもすごくあります。施策のイメージを整理していく中でどうすればうまく表現できるかですが、ばつと見ただけでも関係がありそうなものが幾つかありますね。また、先ほどもありましたが、どういうみどりをつくっていくかというところで、この中自体が縦割りになっていると、目標とするものに近づかなくなりますので、もう少し工夫しなければいけないと思います。

6ページの重視すべき視点の四つの整理の仕方については何かご意見はないですか。

**○片山委員** まちづくりの活動と連動してオープンスペースを創出するというのは、新たに創出するので、ストック活用を含むのでしょうか。それよりも、札幌の魅力を高めるほうに近いような気がします。

**○事務局（仁宮みどりの推進課長）** 文言どおりに考えますと、ストックの活用というのは、既存の公園などをより有効に使っていただくという前段のほうの視点になりますが、ここでは少し広い意味で捉えております。左側の矢羽のところにもありますとおり、都市機能を集約していかなければいけないということもあります。

ですから、都心のまちづくりの中で複合化が行われる中で、単純に公園をつくるのではなく、より有効な場所に民間などと連携しながらつくっていく、そういう広い意味でのストックも有効に活用していくような視点で書かせていただいております。

**○愛甲部会長** 私の印象ですけれども、この四つの丸自体が視点であり、右側にある四角の中は重視すべき視点を展開したときのみどりのほうでやる取組に当たるものではないかと思いました。

今、片山委員がおっしゃったストックを活用するというのは、まちづくり戦略ビジョンからいったときに出てくる視点の一つであって、それを具体化するとみどりのほうではこういうことになるということを行っている気がします。

ですから、矢羽と丸のほうが視点で、こちらはそれに対応する取組になると思います。

**○事務局（仁宮みどりの推進課長）** おっしゃるとおりです。

**○愛甲部会長** また、左側のボックスの中に札幌のみどりの現状と課題が入っていますが、果たしてこれはここに置いておいていいのでしょうか。

というのは、先ほど言っていたように、整理をしていく中で、みどりに関する課題の整理は既に2番目のフローの中でやっていますが、さらにここでも出てきて、視点の中にもそれがひっかかってくるわけです。ここで言っている視点というのは、みどり以外の札幌市の全体的な課題や社会的な背景などを取り上げた上で背景的な状況から考えるべきことが挙げてあればいいような気がします。

そういう意味で、ストックの活用のところ、矢羽の中にはみどりや公園に寄ったことが出てきており、公園のみどりの現状と課題の部分が二重にかかってしまいますので、この辺はもう少し工夫するなど、整理の仕方をもっと少し考えてもいいと思います。

**○小篠委員** 6ページの一番右側のところまで文章を書いておけば、他部署と連携しながらやっていかなければいけない施策イメージを書けると思うのです。

それでどういうことが起きるかですが、7ページと8ページは公園セクションで考えている施策イメージを書いているので、ダブルレイヤーになって、いわゆる連携しなければできないことと自分たちができていることがかみ合わさっているというふうにつくることができると思うのです。

これは、先ほど吉田委員が言っていたオーバーラップがあるはずなのにそれが全く見えてこないということで、7や8の整理の仕方ではそうになってしまうのです。しかし、6ページのように連携的な施策という形で書けるとすれば、それと7と8がこうやって重なり合っていることを示せると思います。

このように施策で切り出して書こうとすれば、必ずどこかと連携してやるような施策になるものが多いと思いますが、そうしていくと見えてくる感じがしますし、今回の場合、この四つの丸を位置づけることが明確になってくると思います。

**○愛甲部会長** 具体的にどうするかは、なかなか大変そうですね。

**○小篠委員** これは、一度書き出してみないとわからないと思います。

**○愛甲部会長** 皆さんはこの整理の仕方自体に異論は余りないようですから、7ページと8ページの整理をするときに、オーバーラップを含めて、もう少し工夫をしていただければと思います。

**○吉田委員** 自分の専門の分野が気になるのですが、ストックということで、青色、赤色、紫色、緑色となったときに、6ページの一番左下にもう一度現状と課題が出てくるのはおかしいと部会長がおっしゃっていましたが、現状と課題のところはなんとなく自然環境の保全につながるのです。上のほうは、それなりに明確なメッセージや戦略などをいっぱい書いてあるのに、こちら側はなんとなくというものばかりで、真ん中がないのです。

目標とすべき都市像や計画などがあって、多様性のビジョンの話など、いろいろなこと

があるわけですから、都市で必要なものをリスト化し、そこが隣につながるとしたほうがよいと思います。これは、またもとに戻って現状と課題を見直して、それから、市民意識調査の結果をここで使うならば、上でも使うべきだと思います。ここだけずれている感じがします。この箱の形からしても非常に違和感を持ちます。

**○愛甲部会長** 余り外れているように見えないようにしていただければと思います。

これは、必ずしも横から来ているわけではないですよ。左側のページの右側のページは、そういう意図があるわけではないと思います。

ただ、その他関連計画の一番左のボックスで、環境基本計画のところに生物多様性さっぽろビジョンが出てきています。この部分からもう少し書き出せば、自然環境の保全の視点、重視すべき視点のところに追加できる要素はもう少し書き込めると思いますので、今言っていたように、札幌のみどりの現状と課題がこうなっているというところはもう一度考えてみたほうがよいと思いました。

ほかにかがででしょうか。

**○三上委員** 私も全体的なまとめ方はこれで結構かと思いますが、言葉の使い方で2点ほど気になることがあります。

一つは、赤色の視点のところだけに札幌という言葉が出てくるのは違和感があります。ほか札幌にかかわることなのです。これは、札幌という言葉を使わないで言うとなると、都市としての魅力を高めるとのことかだと思います。ちょっと長くなりますが、そこは工夫できたらいいなと思います。

それから、これは答えを持っているわけではないのですが、紫色のところも市民ニーズへの対応のところはまだやや漠然としていると思っています。つまり、市民ニーズが多様化しており、その多様化した市民ニーズに対応しなければいけないという書き方になっていまして、それ自体は正解なのですが、左側のページを見ると、もう少し踏み込んで言われていると思いますので、それを何とか書き込めないかと思うのです。

例えば、公園の活用の仕方にもかかわりますけれども、地域の中でどういうふうにつながりをつくっていくか、高齢の方もどうやって安心して過ごせるまちをつくるかということがとりわけ大事な部分なのかと思います。

ですから、多様なニーズがあって、いろいろなものに対応しなければいけないという言い方より、そこをもう少し表現できるといいと感じました。

**○愛甲部会長** 言葉の部分は、先ほどストックと資源が重なっているのではないかとこの話もありましたので、言葉についてはもう少し見直したり整理したりしていくことが必要だと思います。そのときにはまた皆様のアイデアやご助言をいただけると助かります。

それでは、時間が来ましたので、まとめます。

都心のみどりについては、先ほどからいろいろとご意見をいただきましたように、もう少し具体的なイメージがわかるようにするということですね。文章や評価という話もありましたが、どこまで到達しているかという部分を含めてやるということですね。

また、実際に緑視率という言葉を使うかどうかは別にして、市民の目に見えるみどりやオープンスペースなりをふやすということを具体的に掲げられないかというご指摘があったと思います。

そして、人については、ここに掲げられているようなことと、ボランティアの方々がないで活動されているのかということを中心に位置づけるべきではないかというお話もいただきました。

構成については、重視すべき視点がこの流れの中でどういう係り方をしていくかというところの整理と文言の整理が必要だということです。また、施策に展開していくときに、みどりの中でやる施策と、他分野と関連してやらなければいけない施策について、さらに、オーバーラップをもう少しうまく整理した絵にできないかというご指摘があったと思います。

この辺を整理していただいて、次回は審議会でまた議論していただくこととなります。また、審議会のメンバーの皆さんには、アンケートやワークショップの結果を、さらに、部会でいただいた意見をまとめてつくった結果を骨子案として見ていただくこととなりますので、ご協力いただければと思います。

最後に、全体を通してご質問やご意見があれば伺いますが、よろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

**○愛甲部会長** それでは、事務局にお返しいたします。

### 3. 閉 会

**○事務局（仁宮みどりの推進課長）** 本日は、長時間にわたりご審議をいただきまして、まことにありがとうございました。

今回いただきましたご意見をもとに、構成（案）を再度見直し、次回の9月7日の審議会では2回の部会の審議過程をご報告することとなっております。

修正した構成（案）につきましては、愛甲部会長ともご相談しまして、次回の審議会にお諮りしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、第2回基本計画部会を終了いたします。

本日は、ありがとうございました。

以 上